

令和4年度 事業所職員向け おとは 児童発達支援 評価表

児童発達支援・放課後等デイサービス おとは

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等への関係で適切である	○			
	②	職員の配置数は適切である	○			ご利用児の数というより、特性でにスタッフが足りないと感じるときがある。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			一部バリアフリーになっていないため工夫して対応しています。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			今後も継続して進めていきます。
	⑤	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			保護者様のご意向を踏まえて、業務改善に取り組んでいきます。
	⑥	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページにて公開しています。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は行っていないが、必要に応じて対応していきます。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			コロナ禍の4年度でしたが、zoom会議など、積極的に参加しています。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			アセスメントを丁寧に行い、職員間で課題を分析し、計画を作成しています。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	⑪	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			今後もより良い支援計画書となるように取り組んでいきます。
	⑫	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	⑬	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			役割分担をしながらも、職員間で評価を共有し、支援にあたっています。
	⑭	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			季節に合わせた行事内容を取り入れています。
	⑮	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			職員全員で話し合いながら、計画書を作成しています。
	⑯	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			活動の内容や、個々の利用児の支援のポイントを確認しています。
	⑰	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			休みの職員がいるときなどは、申し送りノートなどを活用し情報を確実に共有できるようにしています。
⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			毎日記録をとり、日々の支援に活かしています。今後も継続していきます。	
⑲	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			対象児童様に応じて、児童発達支援管理責任者や必要な専門職が参画しています。
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			ご家族から情報を頂いています。
	㉒	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			連絡体制を見直しながら緊急時の対応を再確認していきます。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		

令和4年度 事業所職員向け 児童発達支援 評価表

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標・工夫している点
関係機関や保護者との連携	②4	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		
	②5	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		必要に応じて専門機関からの助言を受けています。
	②6	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	②7	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	コロナ禍にあって今年度は難しかった。機会を見つけ取り組んでいきます。
	②8	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		こども福祉協議会に参加しています。
	②9	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		
	③0	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		○	
保護者への説明責任等	③1	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		
	③2	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		
	③3	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		
	③4	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	今年度一度開催した。今後も事業所や保護者間の繋がりを深めるためにも、サロンや保護者会など取り入れていきます。
	③5	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		職員間、法人内で情報を共有し、対応しています。今後も迅速な対応を行います。
	③6	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、お便りを発行しています。
	③7	個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報同意書記載事項に準じて取り扱っています。
	③8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
	③9	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	コロナ禍にあって今年度は難しかった。今後は地域との交流も積極的に行っていきたい。
非常時等の対応	④0	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		今後も、職員間での研修や勉強会を行い、保護者の方にもより周知して頂くよう努めます。
	④1	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		事業所管轄区域の消防署と連携し、火災避難訓練を行っています。
	④2	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		スタッフ間で、二重確認を行っています。
	④3	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の指示書は頂いてないが、ご家族の指示に基づき対応しています。
	④4	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット及び事故報告書を作成し、全職員に回覧し共有しています。
	④5	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		今後も、虐待について理解を深めていきます。
	④6	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束と捉えられそうな状況は、個別支援計画書に記載し、保護者の方からサインを頂くようにしています。